

1 ポイント (特に工夫した項目に○ いくつでも)

教材教具の工夫	
1 実態に合っているか?	○
2 ねらいが明確か?	○
3 興味関心を生かしているか?	○
4 シンプルで誰でも再現可能か?	○
5 一目で動作をイメージできるか?	○
6 児童生徒も教師も使いやすいか?	○
7 実際の生活や他の場面で生かせるか?	▲

3 教材教具のねらい

・いくつかの手順を理解し、一人で迷いなく作業を進めることができる。

4 改善の経緯

(1) 6月頃の使用例や児童生徒の様子

- ・自分でファイルに袋を入れようとするが、折れたりずれたりすることがあった。
- ・作業の切れ目がわからず、終わりの見通しが持てず、意欲が持続できない。

(2) 12月現在の使用例や児童生徒の様子

- ・袋からパックに形が変わり、シールが折れやすいため、穴をあけずシールを貼ったがシールを貼る位置を明確に示したため混乱はなかった。

作成者：花岡 賢

(高等部)

2 児童生徒の実態と教材の写真



①



②

シール貼り教材1

袋と同じ形にプラスチックファイルを切る。シールを貼る位置にシールの大きさに合わせ穴をあける。6つの角を合わせると、必ず同じ位置にシールの穴があるため、迷わずシールを貼ることができ、一人で作業を進めることができる。

シール貼り教材2

- ①紙粘土でパックの型を取る。蓋に空いている穴に合わせ爪楊枝を4か所にさす。パックのシールを貼る位置に合わせ、紙粘土の型にもシールを貼っておくとより、シールを貼ることを意識できた。
- ②パックを爪楊枝に合わせ、刺すようにかぶせるとシールを置く位置にぶれがなく、一人で作業を進められた。

改善のポイント！！

- ・下部、ファイルを切り落としたところから指を入れ位置を直す方法を伝えると、ずれを直して、位置を整えることができた。
- ・ファイル、シールとも10枚用意し、終わるごとにファイルに袋を入れる作業を入れ、インターバルをとった。

今後の改善や使用について

- ・シールを10枚ずつさらに入れて維持することで作業の切れ目を付けた。
- ・シールを貼った後、爪でなく指の腹で周囲をなぞるよう指導した。